

HOPE UNDER THE RUBBLE がれきの下の希望 日本語概要

イスラエルの家屋破壊政策がパレスチナの子どもたちとその家族に与える影響

家は、子どもが育ち、成長し、守られていると感じるための基礎となる場所です。子どもの権利条約によると、子どもは家庭的な環境で幸せな雰囲気の中で育つべきであり、すべての子どもは最善の方法で成長するために安全な場所に住む権利があるとされています。占領国であるイスラエルには、これらの権利を守る義務があります。しかし、1967年にイスラエルがヨルダン川西岸地区を占領して以来、イスラエル当局はこれまでに推定 28,000 棟のパレスチナ人の家屋を破壊し、数万人もの子どもたちを強制的に移動させ、彼らの基本的な権利を大幅に損なう形で生活に影響を与えてきました。

新型コロナウイルス感染症の流行が続いているにもかかわらず、パレスチナ人に対する家屋の破壊や強制退去を余儀なくされたとする報告件数は上昇傾向にあり、2020 年は過去 4 年間で最も高い件数が報告されました。この憂慮すべき上昇傾向は今後も続くと推定されます。2021 年 1 月～3 月の間、イスラエル当局は 293 軒のパレスチナ人所有の建物を取り壊し、または差し押さえましたが、これは前年の同時期の **2 倍**の数になります。

家屋を取り壊された家族は、家、地位、安定、生活、社会サービスへのアクセスを失い、彼らの日常生活や将来は壊滅的な影響を受けます。セーブ・ザ・チルドレンは、**家屋の破壊による、特に子どもたちの生活に与える即時的、および長期的な影響について明確に理解するため、ヨルダン川西岸地区の 217 の家族にインタビューを行いました。**私たちは、この調査結果が、家屋の破壊が家族の生活に与える甚大な影響を明らかにすることにより、国際社会が影響力を行使してイスラエル政府が直ちに政策を変更するよう説得することを期待しています。これには、イスラエル政府による国際法の継続的な違反に対抗する措置も含まれます。

調査結果によると、家を失ったことによる初期のトラウマに加えて、土地の強奪や強制退去をされたという事実は、子どもたちから安心を奪い、深刻な精神的苦痛をもたらし、友人やコミュニティから孤立させてしまうことも明らかとなりました。実際、そうした子どもたちのうち **70%**が社会的に孤立していると感じているほか、大多数の子どもたち (**60%**) が、取り壊し後に教育の機会を失ったり、妨げられたりしたと感じています。

ほとんど (**80%**) の子どもたちは、世界から見放されたと感じており、両親やイスラエル当局、さらには国際社会など、自分たちの権利を守ってくれる存在を信じられなくなっています。その結果、多くの子どもたちは、無力感や失望感を抱き、それらは将来に対する気持ちに大きな影響を与えています。

ファーディさん(**16 歳**)は次のように話します。

「私たちの家や生活が破壊されることを、誰も止めなかったし、止めることもできませんでした。それなのに、未来のことを夢見る意味なんてあるのでしょうか」

家屋の破壊は、親や養育者にも多大な精神的負担を強いることとなります。大半 (**76%**) の家族が、家を失った後、子どもを守ることができないと感じていると報告しています。また、ほとんどの家族

(80%)が経済的にも壊滅的な影響を受けており、家屋が破壊された後に4分の1以上の家族が職を失い、さらに生活費の高騰によって、その影響はますます大きくなっています。

ほとんどの場合、家屋の破壊を正当化する主な理由は、イスラエルの計画制度に基づいて発行される建築許可証がないというものです。この制度について、国連人権理事会で発表された国連事務総長による報告書は「制限的で差別的であり、国際法の求める原則と相いれない」とコメントしています。

パレスチナ人の家屋の破壊、パレスチナ人の土地の収用、それに伴う立ち退きや強制移動は、国際法違反であるだけでなく、子どもが成長に適した生活水準を得る権利など、子どもの権利の実現を妨げるものです。国際社会が、対抗措置を含めてイスラエル政府への責任追及を明確にしない限り、家や学校は取り壊され続け、子どもたちが最も高い代償を払うこととなります。

占領国であるイスラエルには、保護の対象となる人々の権利を守る義務があり、特に子どもたちには特別な保護を与える必要があります。セーブ・ザ・チルドレンは、イスラエル政府に対し、家屋、学校、重要なインフラに対する既存の取り壊し命令をすべて取り消すよう求めています。これができなければ、家も教育機会もない子どもたちが増え、パンデミックが日々の生活に与えている影響はさらに大きくなるでしょう。

